

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 商学演習(1年次必修科目)における共通講義内容（ベンチマーク）を作成し、教員に徹底する。	→商学演習の共通講義内容（ベンチマーク）の作成。毎年4月の教授会での配布と確認。	B
2. 各学年の履修申請単位数上限を2～4単位程度引き下げ、一方でGPA上位の学生には単位数制限を緩和する。	→履修申請単位数。内規の改正。	A
3. シラバス内容と整合する授業が実施されているかを確認する。	→シラバスの遵守について教授会での確認。	D→C に変更
4. 全科目のシラバスにおいて評価方法を明示する。	→ネットシラバスへの評価方法の記載率。	B
5. 成績評価結果を教員へ公開する。	→事務室における成績評価結果の常時閲覧実施の有無。	A
6. 単位認定の適切性を定期的に確認する。	→単位認定数。定期的な単位認定の見直し内容。	A
7. FD委員会主催の授業改善のための研究会を継続し、FD委員会主催研究会への参加教員を増加させるとともに、教員からの提案・議論の活性化および授業改善取組事例の共有を進める。	→FD委員会主催の研究会の開催数。FD委員会主催の研究会への参加教員数。授業改善取組事例の報告数。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

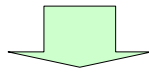
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 適切な教育方法と学習指導を確立させる。 (現状説明) 2010年度入学生より、履修申請単位数上限を下げた。2012年度の実施を目指して、現在、教育課程表、カリキュラムの全面改定作業を進めている。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) シラバスの内容と整合する授業が実施されているか否かを確認する作業はしていない。
☆ 小項目6.3.3	単位認定の適切性を担保すべく、具体的には、スペイン語検定試験の改訂に合わせ、成績評価に係わる学部内規の改正を行う。
☆ 小項目6.3.4	FD委員会主催の研究会を開催している。開催数は前年度並である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	履修申請単位数上限を下げることにより、学生は各学年を通じて平均的に受講することとなり、教育効果の向上が期待できる要件のひとつが整った。
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



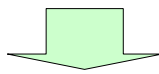
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	GPA上位の学生には単位数制限を緩和する。
小項目6.3.2	シラバス作成時と講義日にタイムラグがある。これによる問題を克服する策は各教員に任せる。
☆ 小項目6.3.3	引き続き定期的に教員に照会し検証する。
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	総じて改善がみられているが、シラバスの内容と整合する授業の実施のように、その確認が難しく、また、刻々と変化する社会現象を研究対象とする社会科学ゆえに、そもそもそれ自体を求めることに限界があるという事項もある。この件については、教授会で要望は行いたい。他の事項については、これまでの方策をさらに強力に推し進めていく。
--------------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○シラバスと授業内容の整合性は一般に（他大学等では）学生による授業評価アンケート等で確認しています。このページの「Ⅴ. 本項目の評価指標6.3.0S7」がこれに関連しています。

【学内委員】

○自己点検・評価は、社会にわかりやすく説明し本学の情報を発信する役目もあります。そのためにも現状説明はもう少しご説明をお願いします。現記述だけでは現状はわかりません。
○小項目6.3.1の（方針）は記述不要ですが、これらの方針を立てられておられるのであれば現状説明で明示してください。
○シラバスの内容と整合する授業の確認は、授業評価アンケートなどである程度可能かと思われます。
○前年並みのFD委員会主催の研究会とはどのようなものでしょう。内容や回数の記述を求めます。
○効果が上がっている事項、伸長させるための方策における小項目6.3.2、ここでの記載でしょうか。
○効果が上がっている事項、伸長させるための方策における小項目6.3.3、何の検証でしょうか。
○現状や目標で課題が指摘されているようですが、改善すべき事項への記載はありませんか。
○7つの目標の内すでに4つが「A」評価で目標達成となっています。目標の見直しが必要かと思えます。
○「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行」において、教育課程に関する情報として「授業の方法及び内容並びに一年間の授業計画の概要」の公表が義務化されます。シラバスの内容が問われます。遺漏なきよう対応してください。
○小項目6.3.1の現状説明では（方針）は不要です。現状説明全体について、もう少し具体的内容がわかるような、より詳細な記述をする必要があります。「効果が上がっている事項」について、【点検・評価（1）】と【次年度に向けた方策（1）】を対応づけて記述してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.3.1(現状説明):商学部の教育内容・方法の改善を図るため、カリキュラムを全面的に見直し、2012年度からの実施を目指して作業を進めている。主たる内容は、専門基礎教育の強化、専門科目の2単位化による柔軟な履修の実現と学習内容の質の向上、卒業単位数に含められる科目を厳選することによる学習の質の向上、ゼミとコースの分離による柔軟な学習の確保等である。

★小項目6.3.2(現状説明):シラバスの内容と整合する授業の確認は、学生による授業評価アンケートによって行っているため、進捗評価をDからCに変更する。
小項目6.3.4(現状説明):FD委員会主催の研究会を、今年度においても、昨年度と同様の回数（2回）開催し、教員間で授業改善取込事例等を共有化する。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
